

令和 8 年度 愛知教育大学入学試験問題

標準的解答例または出題の意図及び評価の観点

【前期日程】

科目名：総合問題（心理コース）

出題の意図

あそびは楽しみや娯楽といった直接的な意味合いだけでなく、社会性や創造性、問題解決力の学習など様々なことがらにつながり、子どもの発達にとっても重要な役割を担うものである。本学のアドミッションポリシーを踏まえるとともに、問1では「理解力」を、問2では「思考力」「判断力」を、問3では現代におけるあそび環境との類似点・相違点を見出し表現する「総合力」を問う。

問1

評価の観点

筆者が述べるあそびの特徴や課題を把握し、抜粋することができているか。

具体的には、「あそびとは、～突然で飛躍的なもの」「一緒に同時にあそべる時間が～とれない」「テレビやテレビゲームのあそびの方が～魅力あるものになっている」などを本文から読み取り、述べられていること。

問2

評価の観点

筆者が提示しているあそび環境の四つの要素を踏まえ、具体的な方策を提案することができているか。

具体的には、「余裕のある気持ちと空間」の必要性、「空間的にも時間的にも余裕があり、そして大人と一緒にあそんでいる」という条件、「虫とりができ、木登りをし、缶ケリをやり、鬼ごっこもできるような総合的な空間」の整備などを、本文の記述を踏まえて課題と対となる方策として述べられていること。

問3

評価の観点

筆者が訴える 1992 年発刊当時のあそび環境に関する課題について、本文を基に現代のあそび環境との類似点や相違点を見出すことができているか。

具体的には、「ある程度の子ども集団ができる環境のなかで子どもを育てる」という課題は現代においてはさらなる少子化で類似している、「テレビゲーム」に関する課題は現代においてはオンラインゲームによる協力や対戦により社会的な交流も可能であり異なっている、一方でゲームでは突然で飛躍的なものという筆者の述べるあそびの特徴が満たせない、

など、本文を踏まえつつ類似点や相違点が自分の文章で述べられていること。